

「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく松浦川流域の取組方針

- 松浦川流域において、唐津市、伊万里市、武雄市、佐賀県、国が一体となり、「水防災意識社会」を再構築するための取組方針を策定した。
- これまで、国などの河川管理者が洪水を安全に流すための堤防整備などハード対策を中心とした河川整備を実施してきたが、今回は、佐賀地方気象台、佐賀県、及び地域住民の安全安心を担う市も参加し、氾濫することを前提とした減災のための取組として、避難行動や水防活動などのソフト対策にも重点を置いた取組方針を取りまとめた。
- 松浦川は 脊振山地や丘陵地に囲まれた山間地を流下する河川である。松浦川の流域は山地・丘陵地が多くを占め、中・上流部では河川沿いの狭隘な平地に集落や主要道路が位置している。下流部は 唐津市街地を松浦川が流下している。中・上流部は山間地を流下するため、豪雨時は短時間のうちに水位が上昇しやすいことが特徴であり、平成2年7月豪雨では堤防からの越水等により、甚大な被害が発生した。
- 松浦川流域において、大規模な洪水が発生した場合には、中・上流部では集落や主要道路の位置する狭隘な平地全体が激流となって流下するため、主要道路の寸断、家屋等流失により、多数の死者・負傷者・孤立者が発生するおそれがある。また、下流部でも短時間で浸水が進行することが想定される。このような現状を踏まえ、松浦川流域の特徴的な課題は以下のとおりである。
 - ・ 平成2年7月豪雨による堤防決壊等で大規模な水害が発生した。その後、堤防等の治水整備を進め、治水安全度はあがった。一方、地域住民の事前防災の認識はあるものの、その後の出水において自治体等からの防災情報に対して地域住民の自主的な避難行動までに至っていないことが懸念される。また、市街地の形成されている下流部では浸水被害の経験が少ないため、防災意識の低下が懸念される。
 - ・ 山間地を流下する河川であるため、急激な水位上昇や堤防からの越水等により、短時間に避難困難な水深に達するおそれがある。また、孤立が想定される地区では避難の迅速な対応や状況の把握等、地域の防災を担う人材がいないおそれがある。
 - ・ 中上流部では河川沿いに集落や主要道路が存在し、大規模水害時に多数の孤立者、交通の途絶が発生するおそれがある。
- これらの課題を踏まえ、『松浦川の大規模水害に備え、地域連携・協働と洪水被害軽減の取組を柱とした「自助・共助・公助のバランスのとれた地域防災力の構築」で被害の最小化、早期回復を目指す』ことを目標とし、避難勧告の発令等を担う市と県と国が一体となって行う取組方針をとりまとめた。
- 取組内容として、洪水を安全に流すための堤防整備や河道掘削などのハード対策に加え、ソフト対策として地域住民と一体となった「地域防災力の構築」に向けた以下の取組を推進する。
 - ・ 地域住民が自らの置かれている水害リスクを正しく感じられるように、ハザードマップの改良と周知、及び活用の取組を推進する。また、「マイ防災マップ」等の取組拡充を通じて、大規模水害の恐ろしさや大規模浸水時の適切な対応について 地域住民の認識を深め、迅速・確実な避難行動に繋がる取組を推進する。さらに、実践的な避難訓練を推進

し、地域住民が判断して適切な避難行動を実現できるための取組を推進する。

- ・ 浸水や土砂災害による途絶を考慮した 避難経路や避難場所の確保に向けた連携・協働の取組 を実施する。地域住民の早期の避難を促すため、自主防災組織・消防団・防災リーダーの育成・強化、河川協力団体との連携、要配慮者利用施設等の避難訓練の促進 に取り組む。
 - ・ 資機材の搬入時間を短縮するため、浸水や土砂災害による 主要道路の途絶に配慮した水防資機材の配置確認 を行う。道路途絶による孤立者対策として 迅速な道路啓開に向けた排水体制を強化 する。
- 住民が身の安全を確保するために自発的に行動できるよう、行政はこれらの取組を推進していく。
- なお、本取組方針については、今後、大規模な洪水に対する浸水想定区域の策定を踏まえ、必要に応じて見直しを行うこととしており、毎年関係機関が一堂に会し、進捗状況を共有するなどフォローアップを行うこととしている。